

(議事要旨)

**○社会資本総合整備計画「三重・滋賀交流圏域における広域観光活性化計画」の
中間評価**

●委員

評価指標である観光入込客数について、中間年においてすでに最終年の目標値を達成しているが、このまま継続していくということか？

●道路課

そのとおり。

●委員

拠点施設の選び方が良かったように思われる。道の駅 あいとうマーガレットステーションは実際に賑わっているし、永源寺は三重県からの観光客がとても多い。今後も観光客数が増えていくことを期待している。

●委員

事業の進捗状況のうち滋賀県道路整備アクションプログラムに掲載の事業について、整備計画に掲載している事業数である 15 事業のうち 3 事業が完了しており、評価指標も最終年の目標値を達成している。このことは、もともとたくさん事業をやらなくてもいいのでは、残りの 12 事業をしなくてもよいのでは、という見方もできる。

●道路課

計画期間内に完了予定の事業数である 14 事業のうち、滋賀県道路整備アクションプログラムに掲載している大規模な事業が 3 事業ある。その他の 11 事業は比較的小規模な事業であるが、地元の詳細を頂きながらなんとか事業を進めることができたと考えている。

●委員

確かに、計画期間内に完了予定でない残りの事業をやらなくてもいいのでは、という見方もできる。しかし、滋賀県道路整備アクションプログラムに掲載の事業は地域の要請がある事業であり、利便性の向上が見込まれる場所もあるので、引き続き遂行していただきたい。地域住民や観光客のためになると思われる。

●委員

アウトカム指標の設定について、本委員会マターではないが、量的な妥当性があるのか、

事業と指標との因果性が適切であるのかについて踏み込んでいかないと、果たして指標の評価が必要なのかという議論になりかねないような気がする。観光入込客数という指標は、国土交通省が提示している指標か？

●道路課

広域連携事業について、観光メインで基盤整備をしていくものであり、全国的にも観光入込客数を設定している事例が多い。

●委員

社会情勢も変わっていくため、観光入込客数について目標値の設定は難しいと思われる。近年、滋賀県は注目をあびている県でもあるので、実績値が伸びた場合、目標値の設定が実際とどうリンクするか説明することは難しいと思われる。

●委員

アウトカム指標の目標を達成していることはいいことだが、滋賀県全体でみると、整備計画のなかには目標達成していないアウトカム指標もあると思う。

難なく達成した指標もあれば、努力して達成している指標もあると思う。

達成していないアウトカム指標に関連する事業を重点的に進めていかななくてはいけないのでは、という見方をされた場合、どう判断するのか。

アウトカム指標の目標達成の難易度を理由にしまうと、地元にとっては変な評価をされたというように受け取られかねない。

難なく目標達成できたということについて、単純に喜ぶのではなく、評価のシステムがおかしいということを感じなくてはいけないと思う。

事業単位での評価であれば問題ないと思うが、県全体でのバランスで評価を考えた場合、おかしいことになる。

●委員

今回は三重・滋賀交流圏域の評価ということで、対象エリアが滋賀県の一部エリアとなっている。滋賀県全体で評価しようと思うと、滋賀県全体での達成状況などのデータがないと判断できない。

●委員長

広域連携事業は観光を盛り上げようという目的の交付金であるので、それに対してどれだけ効果があったのかという評価にならざるをえない。今は観光活性化が推進されているが、いつか頭打ちになると思われる。観光客数が落ち込んだ時、効果の発現がない道路を整備することは無意味ではないのか、という議論になるのではと心配される。しかし、不

要なのかという点、そうではなく、地域の方にとっては三重県とつながることは経済の活性化にも繋がるため、整備する意味はあるはずである。このように、道路は多面的な意味があるはずなのに、観光入込客数の評価を強調しすぎることが県の道路行政にとっていいことなのか、という心配がある。

(以上)